

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

- ・渋谷区という都心にある保育園だが、散歩に出ると代々木公園など自然に触れられる公園が多くあり、子どもたちは季節毎に身近な自然に触れて興味関心を深めている
- ・様々な事への探求心が深く、活動への興味を持って意欲的に関わる姿が多く見られる

2. 活動スケジュール

春 散策を楽しみながら身近な植物に触れて楽しむ

夏 夏野菜を育て観察しながら成長の様子に興味を持つ

遊びを通して風の動きや変化に興味を持って遊ぶ

秋 身近な自然物に触れて遊び込む

冬 講師を招いてこれまでの活動を深めながら自然に触れたり、探求を深めていく

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・画用紙
- ・サインペン・クレヨン
- ・ハサミ
- ・テープ

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・筒形の紙飛行機を作る
- ・目玉を各自で作し、保育室の様々な場所に顔を想像して目玉を貼って顔を作る
- ・西原公園に移動し外で顔作りをする
- ・紙飛行機をとばす(全員で並んで、遊具に登ってなど様々な状況で試してみる)

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

目玉を作って保育室の様々な場所に目玉を貼ってみると顔に見えてくることを教えてもらうと子どもたちは想像を膨らませ始め、色々貼って試しながら顔を作っていく。外に出ると子どもたちの想像は一気に膨らみ、西原公園を走り回って自分で作った目玉を貼って顔に見える場所を探す。はじめは個々の動きだったものが、保育者が顔を並べたりしたことから友だち同士で顔を作って喜び、関わりながら楽しむ姿も出てくる。筒形飛行機は形の特性を上手く利用して飛ばすと不思議な動きをしながらも遠くに飛んでいくことに気付き、とことん投げ方を追及する子や投げる場所（高さ）を遊具に登って探す子…と様々な姿が見られた。どこまで飛ぶか競争しようという声から最後はみんなで横一列になって投げ比べをし、飛行機の動きを観察することが出来た。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

身近な公園の中に目玉を持って行って顔を作るという活動を通して子どもたちの視野が遊具から自然物へと広がっていった。自然物でなくても柱・机などの木目に気付くなど二つの目玉を貼るというだけの活動から得られるものがたくさんあるようだった。個々の動きから自然と集団への動きに変わっていく場面もあり、友だち同士発見やコツを伝え合う場が増えているので、見守りながら必要に応じて援助していきたい。